



林業労働災害発生報告

災害発生日時等	令和 2 年 6 月 5 日 13 時 00 分頃 (死亡確認 6月5日 17時頃)
災害発生場所	静岡市葵区平山
被災者氏名年齢等	氏 名: (女) 年齢: 34 歳 経験年数: 1 年
所属事業体名	名 称: 所在地: (雇用形態: 1. 常雇 2. 期間 3. 臨時 4. その他()) (雇用規模: 1. 1~9人 2. 10~29人 3. 30~49人 4. 50~99人 5. 100以上) (認定事業体: 1. 認定事業体 2. 認定事業体以外) (林 災 防: 1. 会員 2. 会員以外) (年間事業量: 素材生産 2,000 m ³ 、造林 ha)
事業の発注元	1 国有林 2 公団・公社 3 森林組合 4 会社 5 林家 6 立木買取 7 その他(個人)
災害発生状況 及び原因	当日は、朝から、森の力再生事業の実施予定箇所において、被災者含め4人で測量及び林況調査を行っていた。被災者は、元側の測点で測量機器を照射し、数値を読み上げる役割を担当していた。 昼食休憩後、12時45分頃に作業を再開し、測点から測点に移動中、事故箇所を先に通過していた2人が危険箇所であることを伝えたが、被災者は、移動途中に崖から落ちた。 他の職員がその様子を目撃し、3人で斜面下方に移動し探したところ、滑落箇所から約80m離れた場所で発見した。 その場で119番通報したが、電波が悪く途中で切れてしまった(13時07分)。 また、別の職員が下山し、電波の届くところまで移動し119番通報し、おおよその場所を伝え、救急隊を出迎えた。 残りの職員が心臓マッサージを行い、救急隊の到着を待った。 15時頃、救急隊が到着し、ヘリコプターで県立総合病院に搬送した。 17時頃、別の職員が現場近くで事情聴取を受けている際に、被災者死亡の報告を受けた。
作業場所の林種別	1 人工林 2 天然林 3 その他()
作業種別	1 伐倒 (ア 皆伐 イ 択伐 ウ 間伐) 2 造材 3 架線集材 4 架線架設撤去 5 車両集材 6 木寄 7 卷立て 8 造林 (ア 地拵 イ 植付 ウ 下刈 エ 除伐 オ 保育間伐) 9 その他(測量)
使用機械	1 伐木造材機械 () 2 集材機械 () 3 造林機械 () 4 その他 ()
作業対象	1 伐倒木 () 2 造材木 () 3 集材木 () 4 その他 ()
監督・行政機関の 対応	令和2年6月5日: 静岡中央警察署の事情聴取 令和2年6月9日: 静岡労働基準監督署の現場検証
労災の事業の種類	1 林業 2 1人親方 3 その他 4 保険の対象外
労災認定状況	申請手続準備中
その他特記すべき 事項	—

林業労働災害報告(現地調査結果)

災害発生日時等	令和 2 年 6 月 5 日 午後1時 (死亡確認 午後5時頃)
災害発生場所	静岡市葵区平山

災害発生状況から見て考えられる災害分析

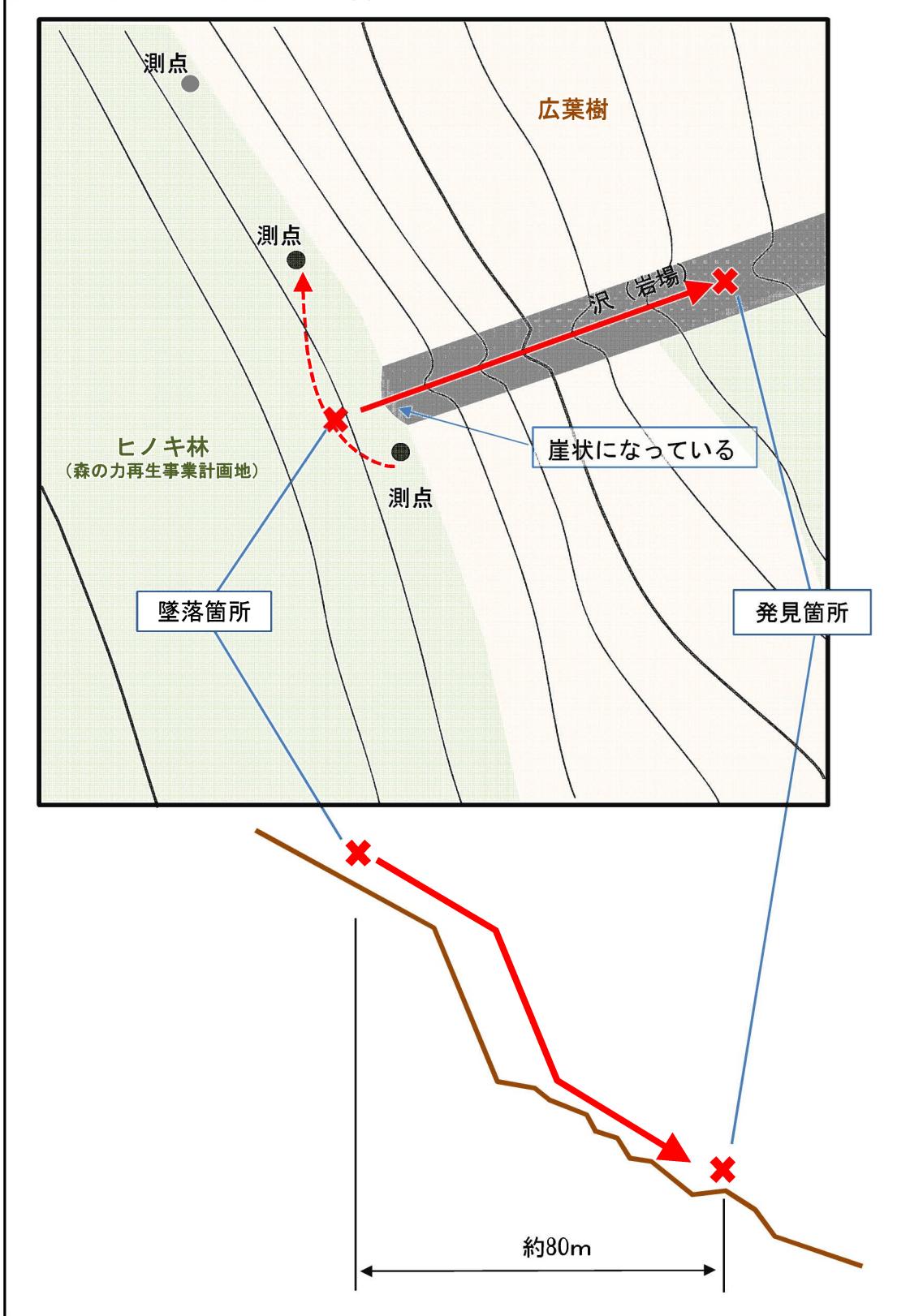
- 測量において、測点の設置を避けるべき危険な箇所の認識が共有されておらず、傾斜がきつくなじみにくい崖状の急斜面の近くを測量した。
- 被災者は災害発生日に初めて現地に入ったことから、危険箇所を把握できていなかった。崖状の急傾斜地の上端部近くに立ち入った。
- 被災者の経験年数が10か月で、今回のような急傾斜地での作業の経験はほとんどなかった。
- 被災者に対し、注意喚起を行ったものの明確な退避行動を指示していなかった。
- スパイク付きの地下足袋をはいていたが、それ以外の滑落対策を講じていなかった。
- 調査や測量の際ヘルメットを着用することについて会社から指示がなく、事故当時、被災者は着用していなかった。

災害原因等を踏まえた災害防止

- あらかじめ、測量の際測点の設置を避けるべき危険な箇所の条件を決め、作業者全員で共有すること。
- 現場及びその周囲の危険箇所(墜落、転倒、落下物等)を確認し、特に注意を払うように、機会をとらえて作業者全員で打ち合わせること。必要に応じて立ち入り禁止箇所を設定する、ロープなどで防止策を講じること。
- 作業者の経験や体力に配慮した作業配置や対策を講じること。
- 作業に当たり、責任者がリスクをしっかりと把握し、具体的な作業手順や退避行動を職員に指示すること。
- 必要に応じてロープや安全帯を使用すること。
- 林内に立ち入る際は、必ずヘルメットを着用すること。

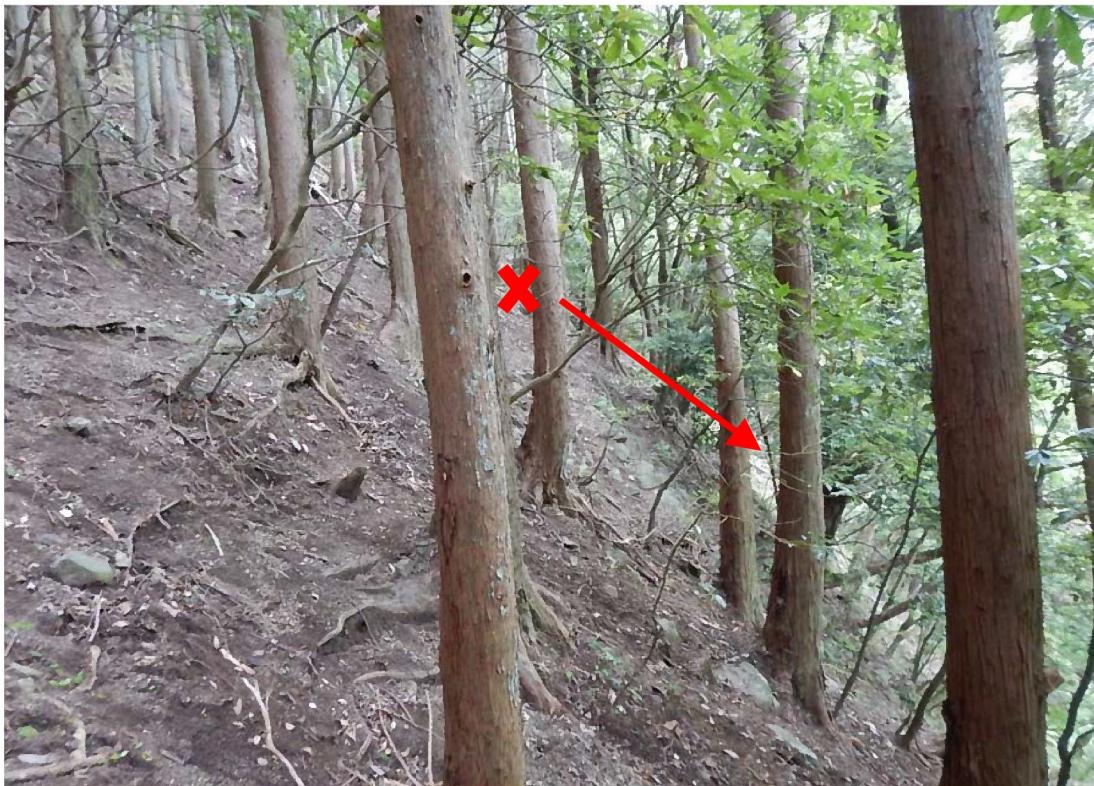
現場略図

発生時の状況がわかる見取図及び写真等





事故現場



事故現場



発見現場